

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100295		
法人名	医療法人 芳明会		
事業所名	グループホーム こんね		
所在地	宮崎市大坪西1丁目1番56号		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&jigyosyoCd=4590100295-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅が密集した場所にあるため、隣近所の方々と顔を合わせることも多く、気軽な挨拶を交わすように努めている。運営推進会議には、自治会やご近所さんの参加を頂き、和気あいあいの雰囲気の中で情報交換を行い、認知症への理解を深めて頂いている。また、季節の行事への参加も声かけし、利用者と一緒に会話や歌等で楽しい時間を過ごして頂いている。会話も利用者を配慮した飽きのない話の工夫で弾んだ声が多く聴かれている。利用者のケアにおいては、それぞれがゆとりある生活・その人らしい生活・当たり前の生活として過ごせるよう、日々決まった時間に縛られることのない日課の中で、職員もゆったりとした気持ちコミュニケーションを図りながら、本人ので意を阻害したり、防御したりしないケアを行うように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中に位置し、近くには協力病院や同法人が運営する小規模多機能型居宅介護などがあり、連携が図られている。自治会にも加入し、近隣との会話なども盛んに行われ、管理者や職員は地域の清掃や地区活動にも積極的に参加している。運営において、管理者は常に職員の意見が引き出しやすいような環境づくりに配慮し、業務改善に努めている。そのため、職員の雰囲気も明るく、利用者や家族の望むこと、不満などがさりげなく傾聴できるような雰囲気作りがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に自然に溶け込み、利用者が普通に当たり前に過ごしていけるよう、ケアを行っている。気になる対応があると、お互いに声をかけ合い、利用者本位の施設を目指し、日々のケアに努めている。	普段の生活ができるよう、理念を具体化し、職員間での意識の統一がなされ、実践につなげられている。また、パンフレットにも具体化された理念が箇条書きで掲載されており、利用者や家族にも伝わりやすい環境にある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を得るようにしており、職員は地域の一員であるとの自覚を持つように努めている。利用者によっては近所を散歩したり、近くの歯科や専門医に受診したり、また、日用品の買い物等で周辺のお店を利用したりしている。	自治会に加入し、地域の行事にも積極的に参加している。また、近隣住民とも顔なじみであり、日常的にあいさつを交わし、利用者の状況なども話ができる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に、出席して頂いた地域の方々に施設の状況を伝えたり、認知症に関する資料をもとに意見交換を行ったりして、認知症についての理解をして頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能施設と合同で、2ヶ月毎に会議を行い、出席者それぞれの立場からお話を頂いている。会議で聞かれる素朴な意見等はとても参考になっており、日頃のケアを見つめなおすきっかけにもなっている。	地区自治会長や地区の高齢者クラブの代表、民生委員、ご近所の代表、家族の代表者、地域包括支援センター職員、事業所の管理者、職員と色々な方が参加して運営会議が2か月に1回定期的に行われている。会議で出された意見を参考に、運営に反映できるように検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宮崎市から送られてくる情報を得たり、制度等でわからない所を電話で尋ねたりしている。運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に出席して頂き、施設の状況を伝えたり、アドバイスを頂いている。	地域包括支援センターの職員から情報を頂いたり、相談を行っている。制度面などに関することは、市の窓口で直接相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修等には、積極的に参加し、身体拘束禁止の行為について日頃から職員間で声かけ合いながらケアに努めている。	身体拘束の弊害について、勉強会や職員会議の中で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束が発生している場合は、家族に十分説明を行い、同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修等に参加し、身体拘束と同様に職員間で声かけ合いながら、常に虐待のないケアに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1人の利用者が日常生活支援事業の利用で金銭の管理をして頂いており、毎月訪問してもらっている。今後は、成年後見制度の利用を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書をもとに説明を行い、理解を頂いている。内容に変更があった時は、その都度連絡を取るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、どの職員に対しても何でも自由に不満や苦情を言えるような関係作りに努めている。面会の際には、気付いた事を必ず伺うようにし、口頭もしくは申し送りノートで他の職員に報告し、情報の共有に努めている。	職員は、常に傾聴する姿勢ができており、日常会話の中なら希望や不満などが導き出しやすいように配慮している。徴収した意見は全職員で共有し、対応できるよう環境づくりがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は直接話を聞いたり、申し送りノートを利用する事で、常に職員の話聞くように努めている。必要時には、それらの意見を代表者へ伝え、仕事に対する意欲の向上に努めている。	月に1回職員会を開催し、職員の意見、要望を聞くようにしている。また、管理者は、日常的なかかわりのなかで意見や要望が出やすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員間では、日頃から話題にあげて話をしているが、全てを代表者へ伝えるのは難しいのが現状である。法人の中の各事業所の代表が集まり、会議が月1回行われているが、問われているような内容について話し合いがもたれる事はほとんどない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は確保されており、職員の能力に応じた研修を積極的に受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所はどうしているのか・・・との思いは常にある。研修等で知り合った事業所の職員さんに話しを伺ったり、県のGH協議会に加入し、研修には積極的に参加し、情報を得るよう努めている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で接し、本人が安心して何でも言えるような雰囲気作りに努め、話を聴くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一方的に事業所の話せず、まずは家族の話に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな小さなことでも話を聴くことで、本人・家族が今何に一番困っているのか、何を必要としているかを見極められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所は、利用者にとっては自分の家、職員は家族の一員という気持ちで、一緒に過ごし、安心や安定感を保ちながら、その人らしさ・思いを活かした関係づくりに努めている。また、利用者は人生の先輩、先輩たちからいろんな事を学ぼうという姿勢で接するようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を面会の時や電話で伝える事で、本人の様子と一緒に喜んだり、心配したしたりすることで、共に支えていると言う事を確認し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に関係なく、いつでも面会、外出、外泊ができるようにしており、面会に来やすい雰囲気作りに努めている。なかなか面会に来られない家族には、時々電話で近況を伝えたり、本人とも直接話してもらったりしている。	近隣の掛かりつけ医への受診や散歩などを通じて、なじみの方との会話やあいさつを通じて継続的な交流ができるよう働きかけている。外出や外泊の希望には、随時対応できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が楽しめるレク活動を考え、日中はできる限りホールでいっしょに過ごすようにしている。また、食事、おやつ等も皆で楽しんで頂いている。利用者同士で会話する場面も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の該当はないが、利用者へのケアの工夫や状況等の情報伝達は随時行っている。家族からは、このまま元気に楽しく、笑顔で過ごして欲しいと継続利用の話を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか自分の思いを伝えられないでいる利用者が増えている中、日頃の何気ない会話や様子等から、本人の思いを職員全員が理解するよう努め、こちらから提案し、自己決定で選んで頂くよう努めている。	本人からの要望は少ないが、日々の暮らしの中で、言葉や表情からそれとなく意向を聞いたり、ご家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との昔話をしたり、家族や面会に来られる親戚の方等の話から、これまでの本人の暮らしを知ることに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックやその人の人生に寄り添う事で、健康面や精神面を把握するようにしている。また、その人のできる力を見出し、配膳の準備や後片付け、洗濯物たたみ等をいっしょに行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、日々の何気ない言葉や行動を記録に残し、その中から本人の思いを知ろうとしているが、なかなか難しい現状もあるが、職員それぞれの経験や知識の中からケアのアイデア等も聞かれ、すぐにもプランに活かすこともある。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を用い、日ごろのかかわりの中で、利用者の思いや意見を反映できるような日々の記録、介護計画を作成している。また、介護計画は、定期的なモニタリングを行いながら職員の意見を反映し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の何気ない言動や行動から気付く事も多いが、記録となるとなかなか難しいというのが現状である。センター方式シートを取り入れ、より具体的に記録するように努めているが、まだまだである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門病院受診等で家族対応が困難な時には事業所に対応したり、必要な買い物等を行っている。それはできないではなく、臨機応変に対応していくようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや自治会の集まり等を通じ、災害時の救援の必要な利用者がいる事を知って頂き、協力が得られるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者がかかりつけ医で、週1回の往診を受けており、常に連携が取れている。また、急変時や突発的な状況が生じた時等、適切な医療を受ける事ができている。	本人、家族の希望で、納得のいくかかりつけ医となっている。受診も必要に応じて付添いも行っており、普段の様子を伝えるようにしている。他科受診においても、本人や家族の希望に沿うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の職員に看護師が1名いる。また、病院からも定期的に訪問看護師に来てもらっており、必要時にはいつでも受診することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された利用者に対しては、職員が交代で面会に通い、状況を家族と共有することで本人はもちろん家族にも安心して入院生活を送って頂いている。病院の看護師、主治医とも常に連携をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族へは現状を伝え、いつでも急変の可能性があり、事故等も起こり得る状況であることへの理解を頂いている。	重度化や看取りについて、かかりつけ医と十分に連携を図り、家族に対して説明を行っている。また、看取り介護に対する同意書を作成し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応やマニュアルを紙面で示している。ケアマネジメント等の研修には積極的に参加しているが、全ての職員が受けるまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、年2回の避難訓練を行っている。自治会でされる防火訓練等には積極的に参加し、事業所への理解を促している。	定期的に防災訓練が行われている。同建物の2階は共同住居のアパートとなっており、協力が得られるよう、体制作りがなされている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、常に職員同士で声を掛け合い、実践に努めている。気になる言葉や対応がみられた時は、その場で話し合い・確認し合うようにしている。	職員は、利用者のプライバシーを大切にして、言葉かけや態度に気をつけており、語調や言葉遣いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線で接する事に心がけ、本人の話にしっかり耳を傾け、表情や様子等から本人の思いを知るように努めている。なかなか思いが伝えられない場合が多いため、こちらから提案し選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先に心がけ、休息や入浴等を本人の希望に添い、基本的な過ごし方にとらわれることなく、その人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人に任せているが、声掛けの必要な利用者には、その人の思いを大切にお手伝いしている。散髪については、利用者の要望に応じ、訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる力を引き出すためにも、配膳の準備や後片付け等を一緒に行おうと声をかけあっている。まだまだ職員がしてしまっていることが多いが、食前・後のテーブル拭きをお手伝い頂き、環境を整え、利用者が楽しい食事ができるよう努めている。	一人ひとりの好みを把握し、同法人の管理栄養士が管理している。職員は、食事時間は同じ食卓を囲み、一緒に食事ができるよう環境を整え、利用者を楽しんで食事をしてもらえるようにしている。食前には、口腔体操なども取り入れ、えん下機能の維持にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は病院の厨房で作られており、義歯や歯のない方にも食べやすいように工夫された食事となっている。また、栄養士による献立のため、バランスのとれた食事メニューとなっている。常にお茶やミネラルウォーターを準備し、いつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの利用者は声かけが必要であり、その人に応じて介助を行っている。これまでの習慣もあり、なかなか口腔ケアへの理解が得られないが、根気強く声かけを行っている。義歯利用者は、消毒剤を使用し、清潔を保つよう努めている。		

宮崎県宮崎市 グループホームこんね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回場所が分からなかったり、時々間に合わなかったりする利用者がほとんどであるため、排泄前後の様子や排泄パターンを知ることで、声かけ、誘導を行っている。	リハビリパンツやパッドを使用しているが、排せつは自立しており、適時声かけてトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にならないように、お茶等をしっかり摂るよう促したり、主治医に相談し、便通をよくする薬を服用して頂いているが、排便状況を把握し、薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には午後、時間を決めないで、これまでの入浴習慣を知ることで、本人の希望やタイミングに合わせた入浴に心がけている。本人の羞恥心や恐怖感等を考慮し、利用者に無理強いをせず、くつろいだ気分になれるよう支援している。更に、入浴日以外は、足浴を実施している。	利用者の入浴したい日や時間に合わせ、毎日入浴できるように配慮されており、週2～3回は入浴している。入浴拒否のある方には、さりげなく声かけし、入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるよう、日中の心身の安定に気をつけている。生活の過ごし方や職員の関わりも自然なリズムが得られるようにしている。夕食後はゆったりと団欒の時間を一緒に過ごすように努めている。本人のペースにあった就床ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬名・用法を薬袋に貼り、どのような薬を服用しているか把握するようにしている。服薬後の、本人の症状の変化や経過の観察に心がけ、主治医と連携に努めている。服薬時は、口に入れる介助を行い、確実な服用に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話の中で、利用者の若い頃の生活や仕事・趣味等を傾聴し、レク活動やお手伝いに活かすようにしている。洗濯物たたみやテーブル拭き等のお手伝いで、張り合いや楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話の中で、行きたい場所を話題にした話をしながら、ドライブや外食を計画・実施しているが、なかなか、出たがらない利用者が増えてきている。書類申請や再発行等の手続のため、公的機関への外出も安心して行けるよう努めている。	定期的なドライブや外食などを計画し、実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を家族から預かり、事業所で一括管理している。本人の希望に合わせて、いつでも利用できるようにしている。本人がお金を気にする時は、所持していることを説明し、安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応はいつでもできるようにしている。電話や面会がなく不安のある時は、職員の方から連絡をとり、家族と会話をして頂いている。年賀状やお便り・スナップ写真を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い窓で、施設内は明るい空間となっている。空調設備も整い、室内温度は利用者が過ごしやすいように調節している。施設周辺の花壇には、季節の花を植えたり、タケノコや柿の収穫時期は、みんなで収穫を楽しんで頂いている。	共用の空間は、掃除が行き届いて清潔に保たれている。要所に季節の花や利用者の作品が飾られ、テレビやソファも設置されており、利用者が思い思いに過ごせるように配慮がなされている。また、空調や明るさも適度に管理され、利用者に快適に過ごしてもらうように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごしたり、ホールでいっしょに過ごしたりと自由にして頂いている。ホールでは座席が決まってしまうが、隣同士で会話する様子も見られている。家具についても、色や設置場所の配慮に努め、安心できる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者にとって家であるという事を職員がしっかりと認識し、その利用者にとって居心地の良い所・落ち着いて過ごせる所となるよう整理整頓・清掃を手伝っている。	利用者が、家具や写真など持ち込み、居心地良い居室になっている。職員は、家族に働きかけたり、本人との会話の中から、好みの物等を把握して飾るなどの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は狭い空間であるが、常に目が行き届き、利用者を見守れるようになっている。手すりの取り付けで、安全に歩いて頂いている。		